



新嘗祭 (にいなめさ い 又はしんじょうさい)

今月廿三日は勤労感謝の日ですが、この日が祝日に指定されているのは、十一月廿三日が日本人全体の収穫感謝の日である「新嘗祭」というお祭りが執り行われる日である事に由来します。いかなければ日本全体の秋祭です。

この新嘗祭の嘗とは「なめ」と読み、味をみるという意味で、その年の新米を神さまが賞味される神事という意味です。新米の他にも、白酒黒酒というその年に醸した新しいお酒なども捧げられ、収穫感謝を、天皇陛下はじめ全国の神社でも祈念されます。新嘗祭そのものは奈良時代には既に執り行われており、日本の最初の祭礼の一つとも考えられています。

この新嘗祭が天皇陛下の御代替りの年だけは、宮中においては「大嘗祭」と呼び名となり、天皇陛下一世一代の重要神事となります。

先月のハロウィンでは各地で騒動がありましたが、日本のお祭りは感謝の心なくしては何の意味もありません。廿三日の翌朝は日頃の糧への感謝の心を捧げて新米を頂きましょう。

茶屋町田舎そば寄席

今月の十六日(金)の午後六時から、茶屋町の御旅社で、田舎そば主催「茶屋町田舎そば寄席」が開かれます。出演 桂福丸、林家染吉。

(有料前売り千二百円 当日千五百円)

田舎そばで使える五百円金券付き)ご予約、お問い合わせは、

茶屋町田舎そば(NU茶屋町南面)まで

TEL 〇六一六二九二一 九八三三

七五三のご案内

御本社(神山町)では七五三のご祈禱を受付けております。まずはお電話で「ご予約下さい」。

※七五三は数え年(満年齢に一歳足す)で計算します。

- ・三歳 平成廿八年生(申) 女児(又は男児)
- ・五歳 平成二六年生(午) 男児
- ・七歳 平成二四年生(辰) 女児

御本社 〇六一六三六一 二八八七

※なお、茶屋町の御旅社においては、少人数(親族含め五名まで)であればお受け付け出来ます。

御即位のはなし(大嘗祭)

平成の御代から新しき御代への御代替わりを控え、四月まで、御即位に関するお話を掲載してまいります。大嘗祭前一日鎮魂の儀

即位礼の後、饗宴や園遊会の祝儀、新しい天皇陛下となられて最初の一般参賀を執り納められると、いよいよ天皇陛下一世一代の大祭祀である大嘗祭が執り行われます。その前日、神事に携わられる全ての人々の心と体の安泰を祈念する鎮魂の儀が行われます。古くはこの鎮魂の儀の中で、御衣の入った筥を振る作法があり、かつて大阪湾岸で執り行われた八十島祭によく似た神事ともいわれています。

大嘗祭(だいじょうさい・又はおおにえのまつり)

十一月二十二日の朝、伊勢の神宮、宮中三殿へ大嘗祭の斎行を御奉告された後、夕刻、大嘗祭の執り行われる大嘗宮へと陛下がお入りになられます。

この大嘗宮は大嘗祭の為だけに建立される神殿で、潔斎などを行う廻立殿、二十二日深夜の神事行う悠紀殿、二十三日未明の神事を行う主基殿などから成り、ここで行われる大嘗祭は、平安時代の神事の中では最高格の「大祀」に位置づけられていました。

廻立殿で潔斎され、御祭服という純白の御装束にお召し替えになられた陛下は、午後七時頃まず悠紀殿へと向かわれます。この向かう間、陛下の頭上には菅蓋が覆い掛けられますが、この菅蓋は大阪の深江のものをしているのが習わしとされています。

悠紀殿での神事を納められた後、次いで二十三日午前〇時過ぎ頃より主基殿での神事に入られます。

悠紀殿、主基殿の中で執り行われる神事は秘儀中の秘儀とされ、皇族などごく限られた人々しか参列出来ませんが、伝え聞くところによると、悠紀田、主基田で収穫された新穀を、お招きした神々と共にする事で、霊威を受け継ぎ、名実共に新天皇となり、新しき御代の安寧と五穀豊稔を祈念する神事とされています。

新しい御代の大嘗祭は来年十一月十四日の予定です。

今月の暦

【祭祀】新嘗祭(廿三日)：日本全体の秋祭。収穫感謝。神事のみ

【節気】立冬(七日)：露が冷気によって凍りそうになる頃
小雪(廿二日)：露が冷気によって霜となって降りる頃

【雑節】七五三(二十五日)：旧暦九月十三日のお月見、豆名月

【大安】十一月四日、九日、十五日、廿一日、廿七日

【祝日】文化の日(明治節 三日)、勤労感謝の日(廿三日)

網敷天神社SNS、地図サイト

